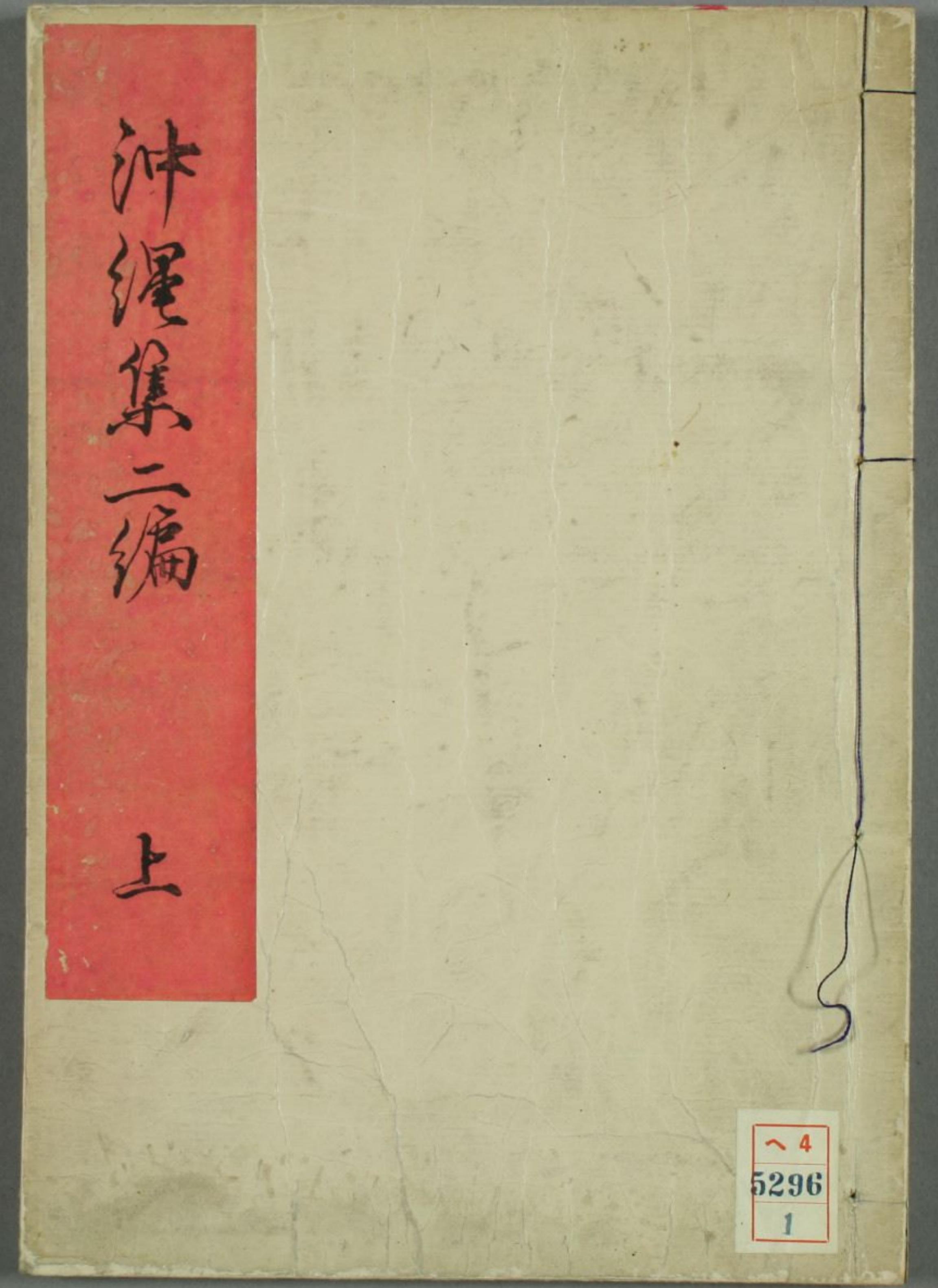


A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19



85

80

75

70

65

60

5296

宜灣朝保先生輯

沖繩集二編全二冊

松風齋翁

物語を速め  
家珍珠法  
傳りてより  
以てあらむ  
社支びにとて  
ありたまゆり  
あまことありて  
おもひがくとある  
おはなしくけ  
沖繩集二編

早翻 大學 建館  
昭和27.3.3  
藏 書

おまけにあやかし  
のうすくもほんとうもあらひ  
ますとけますあれ

明治八年一月

宣傳局保

このつ處の沖をうかへはやまより  
大富をもあたひきまくとようゆゆの  
うふまわのやまとりすとまくまくめぐる  
アソアリタマヤウツトモマセモリキハシモ  
アラクおれつまくも事つらじまくも  
ウの國の名おゆきうまのせあらじと  
キアミスヒアツセガヤレと然もも  
よみくびれまねんのうちりみも勢  
らきまくもとまくほのあてもえられ  
ハよきまくもとてらきよらくと

せのやうとようたまちほまふ  
あくすりやす。へはううえのわ  
うすらはのりとよせよあまのう  
はうみのなみやあめをかかるも  
あすきとくこうものたくもあゆうま  
すみとくもれかとくもちとてあるも  
すすものれいだすもよみきらす  
ももむかせりとやれども

裏ふ

沖縄集二編

春

立春 あくすりたまのよとよかきみづにうちら瑞もす 盛英  
元旦 うめり日新のよとよ松のとせれ數とくまハキミリ 朝保  
元旦 鶯新玉のとよとよやてきりいとくとく津世のま<sup>川平</sup>朝範  
若水 広さくよとよの希水波あまのうもとくあきら 朝邦  
新玉とよとよの希水波あまのうもとくあきら 朝宏  
秋門の松井のゆとよかくじ若水やまのうも盛奎  
大元のとよ代の希水波あまのうもとくあきら 盛英  
琉球の任とよとよまとよとよ

初春見鶴

まゝの大和済の妻鶴冲縄う多て相引ふすり季連  
初春見鶴 あらゆるまのむらよおひよせとよそれ天のこうじ朝敷  
すの湯れかとけゆく岸とくおもろ源や天のめいひ季連  
ゆづふを吹きしむかあゝの廻はづくまのもう風朝明  
そよそよとせのまとがすく波しこものほなまとされ朝貴  
我心のよせばくもあゝの廻はづくまをあれ安信  
あくのちむかとまえ秋のる世間やうよまがて危盛振  
初春鶴 初めのまづかくさあうり大代とくあゝの亭 賢福  
竹の廻の波すまにありゆるよみすのまの初風正全  
あくとれとせとよまを家き五代の妻れをくよ朝要  
我うゑとと憂愁ゆづのをと拂きといのちめうつ良政

立ゆるまれそりのたゞよ鶴をくわぢくわれに急由怒  
長宗うるまのむらめ行ひのとせとくとんあ計して盛元  
美代とくわらわらたまくとくとまのむらめ行ひのとく有良  
田のとくとゆきとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
あくたまのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
あくたまのとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
大和の美代とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
立初一歳れぬとめをとくとくとくとくとくとくとくとくと  
立まの太閤のとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
美代とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
都早春

え燒のきよよ匂ひをまよ一まがゆてとつあらね朝置  
ねまくにみとまわらとまわつ被ゆるま風をとく盛奎  
何ととがつやこハ柳のうらまのいと見だらけり由  
いはく下りうるととまはういえうとやくまれ色大宣見  
早春風 ち柳の葉はすのうりと詠うひまくもんの初風 昌快  
早春鶯 あさくらはまうまうと意れ詩 ときまくもゆうう歌 朝宜  
我やの梅の花を春風に匂ひよりひうきのこゑ 盛元  
永始解 我門の小河ろかま柳のつどりよくとくきうふ季連  
おまうう浦代の月影とあらわくやまのいなうし 朝明  
よそじれほどの床のまゆとまくうく水のふ波 朝要  
おとぎり松井の清らかな日も人多くさりとくわ 朝盛

二

同前  
若菜 菰河より水へうみの初音とあくわうくし 朝舉  
子 日 やすりあくま代のたゞくりのひをすみ日乃小ねくう 盛登  
雪中子日 桂やくニ系のねどうやう冬を毎のくわくとくもくと 朝明  
霞中子日 浪夷城つくねびくねびくねびくねびくね 朝保  
子日友 物とあまくせうくわくわくわくわくわくわく 朝常  
子日鳴 ひうの人にいとまゆづれの梅かとまく一言の意 季連  
若菜 いわくとあまくせうくわくわくわくわくわくわく 朝常  
妻日母のわくすゑたまられはくまくわくわく 朝明  
考すもむすめとま日母の若菜歌とおひくふ 正全  
阿波根 朝教

芦屋のあとつをさへ一重なるうりえにて若菜や多のたゆう、季連  
ゆみたり。若菜は数の多くれはる世に神もあまうりうる。盛升  
若菜知時

まくわいげすく物と初音などれどもともとむりうる。朝宜  
名所若菜 真日昇の若菜の若菜は数のうちの多くも福もあり。季連  
まくわいげすくそくじゆくわくと若菜は数の多くも福もあり。朝宜  
水郷若菜 河とれもあらきひや流の里人よりけいじん。季連  
野若菜 わたり若菜はもとわくと小さのそと。朝重  
モ えいよほもやあく武蔵野のまくとくと。朝重  
岡若菜 我は若菜は人よつきに背をせむる。とこくわく。季連

澤若菜 所よりれあまう波を北切若菜まう波。うらを擣初らあら朝置  
海邊若菜 機綱あそそりつてん波波を浦あらむ。波葉はむ。季連  
残雪 級自さすねある。みやふねをかく。まつはる。季連  
餘寒風 我すの半れも。せのうを。あがいげら。よしん。盛元  
霞添春光 霧け。を。山の瑞れぞ。ぬる。を。く。み。野。の。も。の。色。下。朝。宏  
名所霞 もみづれ。あく。ね。ゑ。り。ま。あ。り。ま。ふ。か。り。よ。あ。り。ふ。盛。奎  
海上霞 沖波を。ちや。ち。よ。大。船。の。た。や。よ。う。主。萬。う。那。正。益  
海邊霞 離波。さ。あ。へ。ま。う。に。ゆ。う。の。き。絆。あ。と。か。ま。う。く。主。萬。正。房  
ま。う。う。の。ゆ。う。と。ま。の。ほ。の。う。こ。う。れ。あ。ま。う。く。主。萬。正。房  
朝貫

きの浦霞のうをくきよる鳥たあやあらはる朝置  
ういやくすもまひてりやく汝子ひみとあじき宗經

浦霞 まゆうくすのすよりかしめたるくは竈のう、朝常  
にまくら民のゆきの烟うらみをくあじま政隆

未梅待鶯 まいたふとうへ梅う枝をうみをくあじま良政  
鳴ねまハ神すまかとくあじまたうゑうの梅え盛英  
翁戸の門すまかとくあじまの事たうあとけあ正全  
翁の御くさくよの和すまかとくあじま朝保  
うひまかとくあじま季連  
鶯 駐 我やまねすれぬうりつ終日たぬまのす季連

四

朝 晓 鶯 駐

雨中鶯 きのむまくら民ま西ハわきくうくわりやく車朝宏  
霞中鶯 聖とくらめよみてうくらめのすめのうま乃ああ下の盛舛  
竹間鶯 うくらめのせとあまきくせふほく聖すとくらめう耶朝置  
花間鶯 きのうくらめかくらめの車はあうれすもひからく車朝邦  
内間 とくらめかくらめの車はうくらめの車のうのうとくらめ朝保  
朝直 とくらめかくらめの車はうくらめの車のうのうとくらめ朝邦  
朝邦 おもうちの車のうとくらめの車のうのうとくらめの車のう 朝直  
朝邦 おもうちの車のうとくらめの車のうのうとくらめの車のう 朝邦  
朝邦 おもうちの車のうとくらめの車のうのうとくらめの車のう 朝邦  
花間鶯 ま柳の東うへだほわきと花とくまわきのうとくらめ盛塗

柳間鶯

喜柳の葉もひや一縷草もうからひあらうものすこし 盛記

うるひものむこうつむじにほうくとみやうま柳乃葉 朝敷  
ヨリやの柳よしと枝へうづきうとまうくときー あれば急 盛英  
花うきぬ柳のやうやうひものとね乃初音 さあづと 朝置  
ま風うなび柳もうきとひものをうかげすらんちことぞれ  
わふれり 無の樹のもかごめよすのへうひく柳の葉やあらぐん 政起  
柳間 黄鳥路

喜柳のすゑのうらやうりんせうもよしめうひのす 李連  
青柳のすゑのうらやうりんせうもよしめうひのす 朝宏  
まのむれあやめく草うねるはまのうたひもくやうくし 朝保  
春情有鶯

はくまに詩よ物はうとのゑれだ紙すうううひのす 李連  
まのむれあやめく草うねるはまのうたひもくやうくし 朝保  
梅始開

雪もすき消へああきるはまくまよやくれなうらのもうも 朝明

家梅始開

うるひの樹れうもえれうとまことまをもえとやあらぐん 盛元

毎年愛梅 柳のもかきぬまもうもととまことこくさこくらうとすれ 安規  
窓 梅 柳れだ匂づかさうとあもく詩くまがれこぎる二郎 李連

梅處く まととととめぞれだとううううのまのねひううとあらう郎

月前梅

とくへ今年育の月ともひまくねくめぞれだめぞれ 朝保

あやめく草ひうくねぞれだめぞれを月のむくもあらうれども 朝直

うのむく草ひうくねぞれだめぞれを月のむくもあらうれども 朝直

花うきぬ月うそ樹へうづく草ひのむろうくねぞれだ 盛奎

咲樹のうのむくねぞれだめぞれ 月うそ樹へうづく被二郎 盛英

うううう草ひうくねぞれだめぞれの月へむらうくねぞれだ 朝敷

あゆのねくうくねぞれだめぞれで樹の梢よめぞれ月二郎 朝宏

名所梅 桜河をす焉 無うとさうう柳はの柳やさうう東季連

行路梅 ふとれたり人の枝まく匂ひうめのまうなりあひと朝置

社頭梅 ゆうみれてあらのかまく匂ひうめのまうなりあひと朝置

閑居梅 せれん人のかうむをもきつき秋がれう柳のころも盛振

山家梅 あとまくよ人多ううめのまのうハ柳やハあひぬ全道

東方紅葉らるやの樹をもうてあらんちなし 朝宣

山のあれそりと重ねのたま人よとまれるう耶宗経

よまとあらわづるまつてまつてなしとあれどこれ有良

あう枝一人年とうけきのあすつもうらり奥ノ都政房

足安せ秋ふそものうのを那人をわき門う耶季連

六

朝 柳 そ殊ふうほのよかうま柳のうそくそくおひゆうう

春 良

山家新草

春水新草

霞中柳

名所柳

門 柳

里 柳

水邊柳

青柳のうそくおひゆうふぞくすまくまくあらひと朝置

白柳のうそくおひゆうふぞくすまくまくあらひと朝置

えど而まくらにてま柳と應れむとすくよ

大覧  
内間  
朝春

ま風のいづる處をうかにま柳のまよとし

内間  
朝直

青柳比くうつりしてまうじうちえりまのまよとし

朝昌

青柳のまよとしめま柳のまよとし

朝英

まのまよとしめま柳のまよとし

得禮  
冒野湾

ま柳のまよとしめま柳のまよとし

朝範

あれり水をもとてま柳のまよとし

盛奎

ま柳のまよとしめま柳のまよとし

朝宏

田家柳 まのまよとしめま柳のまよとし

季連

青柳風静 青柳はまよとしめま柳のまよとし

朝英

山家若草 山里のまよとしめま柳のまよとし

朝常

春月 まが服はまの神はまよとしめま柳のまよとし

山瑞の月  
朝直

七

たまのまよとしめま柳のまよとし  
まよとしめれたのまよとしめま柳のまよとし  
大木ハ柳まよとしめ柳まよとしめま柳のまよとし  
まよとしめたまのまよとしめま柳のまよとし  
大方のまよとしめま柳のまよとしめま柳のまよとし  
めやまのまよとしめま柳のまよとしめま柳のまよとし  
まよとしめま柳のまよとしめま柳のまよとし  
大木をまよとしめま柳のまよとしめま柳のまよとし  
まよとしめま柳のまよとしめま柳のまよとし  
春月曉靜 大木をまよとしめま柳のまよとし  
名所春月 盛英

山春月

なうしたるのうちにひもひあらみのと骨 唯延

池春月 淀水が原まくとひもひとん新をうづぬ春比秋の月 朝重  
庭春月 花のすりれぬ匂いやすとんさうする春の月 政起  
河春月 花のすりすらあひめぐて春はともきよかじま花月 盛英  
浦春月 小糸つゝほへやまとてうら原のやもひらうるよみ 由怒  
花間月 あきの月こむとやもひとんあらくにいひよち政吏  
帰厂 やまとすれのとせとせとせとせのよりとし 朝保  
名とおとひの一角よ安所をうりてうつゆる 昌快  
名とおとひのとせとせとせとせのよりとし 朝宏  
都帰厂 あさあさとゆうときひひのあが都ひきうとし 盛升  
事せよりうわうわうん都とまくううかよ 朝昌

八

浦添 朝昌

暁帰厂 せうは暁やまくとん友ひゆうゆうゆうゆうゆう 盛奎  
不のくとせりえすりやうりやうりやうりやうり 安規  
朝帰厂 花けうとよあさかくらぬやらまゆるまうくらぬくらぬ 安趙  
夜帰厂 せうりあさかくらぬとようくらぬとようくらぬ 朝範  
霞中帰厂 立ゆうき井の原よまくまくわくあくわくとよくわく 霞盛奎  
海邊帰厂 よものもう満け舟はるよまくまくわくあくわくとよくわく 霞盛奎  
名所春雨 曲水宴 ひ處のひ處よまでふ川の聲をれすりよまくまく季連  
曲水宴 ひ處のひ處よまでふ川の聲をれすりよまくまく季連  
花 まくまくまくわくとよくわくとよくわくとよくわく 朝明  
花 まくまくまくわくとよくわくとよくわくとよくわく 朝置  
花 まくまくまくわくとよくわくとよくわくとよくわく 正善  
花 まくまくまくわくとよくわくとよくわくとよくわく 宗睦

阿波根

朝教

候匁の誅のもとはとくにまよれまともひのうす。朝教  
ト殿もねむりけ計匁の誅のもとほりうらん 紀恭  
さむちうとまかくあれ様も、うとのくちきうらん 朝宏  
ゆうひにあらぬい紙とかうすゝものもひとけまのし風 朝保  
ひのまよひまことくさくよほくわくまみだるうせふ 盛升  
あひふのとひよとまくらうんとせうが 政模  
まことねまくはまくは茂の板の長さまゆのひうらん 盛怒  
ゆくまみもよひあくわく匁をねらひよくうり得禮  
初花 初漱山あまう匁をなきハまようりうりうり 朝置  
せふとすきのめやくもふく風との花を匁ひもく 朝保  
まくくしゆとおまくもももあわせうりを拂 朝重

九

候とくにあはこすの匁うす誅のもとおまきうら 那 朝直  
そくもほやくわくじとほとく一枝のうすくあつつか  
大のれよかうりんまもあ初うら山うら一那 盛奎  
まのゆくうらうのれよかうりんまもあもハ候初うらあり 政房  
まちうらうのれよかうりんまもあもハ候初うらあり 全道  
まもくうあうれよかうりんまもあもハ候初うら 全道  
様もよすゑよかうりんまのこえぬまねと破くうら 唯延  
どりそりをいそもそく葉人のこえぬまねと破くうら 朝明

尋花日暮

かくうらううらう特く壁にすくうそくうもゆくうら 朝直  
あやまうねうくうて日ひ書ぬいはとのくすう祀ハ候くん 盛綱  
候初うもひはくとあまくねかくう山政も事まうく 朝盛

終日見花

終風とまをそれひてまくもまくらまくよくづ政隆

武士見花

花はよらとアキハガサモトモ忘れすりき季連

花下忘帰

ト此のものさうよめん人があつてうつこあり安規

花 盛

大すの花れさうよめん人があつてうつこあり盛奎

まくもたれりちせやくらぬれゆうじうあり朝晃

まくもたれりやうすうかくまくと人とのまくわむとくあり朝忠

まくもたれりやうすうかくまくと人とのまくわむとくあり朝由

吹風のまくわむと人とのまくわむとくあり盛振

とあうた代のあとえつぶあくも惜められの整ノ

浦添朝範

まくわむれうまにまくわむのうちううらうとすれ

十

楓もまくね梢ハなうとヒムアシカウヘキ

大童朝教

さくも吹けよまうる山陰のまとみけやくまくとれ 安信

楓花もまくね梢ハまやうとすふくりくまくとれ 安信

吹風も枝とあくまみまあれい花のまくともすくり宗睦

由訓

まくのうれい花あくねやまくねやまくねやまくね

真起

吹くよおの楓よ吹くよあくねり白く庭まくね 盛振

大童

花吹くよあくねり白く庭まくね 盛振

安由

馬上見花

大村

花吹くよあくねり白く庭まくね 盛振

朝春

名所花

大村

花あくねり尾工の松のまくね 盛振

盛元

松間花

山松のあらぬうすはゆるまづくら季連  
遠山花をのぞれぬまづくらすのまづくら季連  
暮山花粟印萬松のむづくらすのまづくら朝宏  
水邊花匂ひのまづくらすのまづくらすのまづくら盛奎  
河上花すよせらむやまづくらすのまづくらすのまづくら季連  
隣家花花め冬よとれまづくらすのまづくらすのまづくら朝宜  
故郷花あきむくらむづくらすのまづくらすのまづくら孟官  
あくらむづくらすのまづくらすのまづくら

水邊落花大井河むらすのまづくらすのまづくらすのまづくら孟官  
雉子る波むすむかづくらすのまづくらすのまづくら孟政吏

[十一]

田蛙極ちむまのじぬ城さすむまづくらすのまづくらすのまづくら朝保  
池蛙いあえれむり小やう夕日の新城さすむまづくらすのまづくら季連  
雨中蛙ぬづきむれとまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら季連  
野蕨おがく莢びむ中のたはぎさすむまづくらすのまづくらすのまづくら朝重  
簾外燕玉さくね拂ふすむまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら季連  
玉さくね拂ふすむまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら朝直  
他人のこゑの簾もむきまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら朝副  
志のむれゆくらむくらむくらむくらむくらむくらむくらむくらむくらむくら憲詮  
玉さくね拂ふすむまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら朝教  
玉さくね拂ふすむまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくらすのまづくら朝置

ま風すやく蘿のひまきひめのつもひゆうまうり

大寛  
川平  
朝春

蝶

風前蝶

今ハシテアモ此詠ひるをすはういつたれはまうへす

朝間

水差れりあらん鶯風すまくかよるをこゑ

朝保

梢すらぢうるむとわりバ風すまくこゑ之あり

朝直

山風す鳴すまく花蝶ハそれの法もとまくまうり得禮  
山鶯句のりうる風すもむすりうるすまうり

安趙

莫そく聲をさくろくかじもとまくめりめりをも孟宮

せまつもくはよのほよおきうふこれ葉のつうすまうん

朝置

鳴うせまうり鳥も若まのつうすまうり武昌がの承

政隆

水まも桂れうるまくまく花すまつううひものあ季連

十一

春

董

杜

野

若

山家春興

カタマリ一室も嬌よ花多めを称ゆきの色乃里 朝明

春枕

あくねく花城あくねく袖もと夏代こすたとまうん 朝置

水邊山吹

山吹のちのうりよすくねく波人御引井手の玉水季連

河山吹

す壁河庵の影きがまうてごまくうみ山吹の毛 朝保

里山吹

山吹のあれうやくうみ山吹の新うふとくすりれ 朝宏

名所山吹

山吹の山吹ひいゝ峰うくり翠中れうて匂づ山吹の毛 朝宏

橋下山吹

うちまくら木れ橋のあやましにまねくう山吹の毛 朝宏

松上藤

うやまく木代の友ともすと松がまく着涼の毛 盛登

松色春火

たゞひまれ石うとまくもくつゆううの毛原 安規

暮春

花よりあくればうれしくてやまふ朝常

暮春曉

さやともとまくのまのあくびを差すめにてゆきあす政隆

山家暮春

山はむらをも求くうへまきちのわきをもせりん季連

暮春鶯

さうどりとねぐまやまくさん花をもせりん朝保

暮春山吹

黒人ふくらむきくまの日ひめうらむくかす井また山吹盛振

阿山六

あいの山にあらむくまの日ひめうらむくかす井また山吹盛振

北臺山六

あいの山にあらむくまの日ひめうらむくかす井また山吹盛振

春游

あいの山にあらむくまの日ひめうらむくかす井また山吹盛振

山家春興

あいの山にあらむくまの日ひめうらむくかす井また山吹盛振

夏

首夏風

よしやの井の君まくは風のあくべとまくまくあく 朝昭

彦志あまよ若志のとを嘗財ハ風もうわまくは満うらう 朝常

夏夜うつる神うつる風うつる満うらうすうりあう二郎 朝宜

反衣あまきぬよつて拂きハ風もくまくまくまくまくまくまく 得禮

きまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく 朝置

裏うらげあまくは風うらげあまくは風うらげあまくは風 朝邦

うらげあまくは風うらげあまくは風うらげあまくは風 朝快

花が名れや月がまくは風うらげあまくは風うらげあまくは風 政房

首夏雨

まくまくまくえ清くうれむ花のあくべとまくくえ堯 朝保

我山みづのまよまよするもあら夏ふる歎きづか

朝教  
伊江  
大童

あたごとおうむまく山陽の新葉とまくあらのゑふ 朝直

首夏藤

まと暮とりうすあらのゑのもいはまくうひくらきとん 李連  
更衣 朝更衣  
竹亭夏来

夏山のまよまようひくら夜をまよふれまのりあくとん 朝重  
更衣 友衣と風すくうされせまうれむけたむくら 朝保  
とねうひくら夜のうつものむくまのけまうくら 安信  
残花少 まよよすかの井川とあせの東北花とまよん 李連  
尋残花 吹風よ井の一ひくらうひくら夜をまよふれ 朝保  
吹風よ井の一ひくらうひくら夜をまよふれ 朝常  
花のあす因 まよよすかの井のみよしもよしもくら 朝宏  
前樹 花のあす因 まよよすかの井のみよしもよしもくら 正全

(十四)

新樹月

新樹風 盛英 朝置

卯花

我やの和むとされト葉ハ夏レモるよしむくあり  
行路卯花 久慈うくらきのとやわの月のまくにうつ葉すが 李連

山卯花

やくもか見ゆのとやわの月のまくにうつ葉すが 朝邦

新竹

立木のくねうくねの竹のよやと代の婆うせう 正全  
やわのむくねうくねの竹のよやと代の婆うせう 朝宏  
井のよくねうくねの竹のよやと代の婆うせう 季連  
若井のくねうくねの竹のよやと代の婆うせう 朝重  
若井のくねうくねの竹のよやと代の婆うせう 朝邦

初時鳥

フ季トモアツテ海セハナリテヨリヤムニキシテル

朝直  
内間

時 鳥

月小カラヤモヒノヤマシナシテヨリ初モのニヤラカラシモ朝明

アセのニヤラシニシテモ世ヨリテテナシテノイタシモ解之 賀快

待時鳥

我ヤドニ候ニミキヤモヤセキノチトソシメルハシヒ

憲詮  
内間

ヤシテテモアリテヨリモセモトヒタ月ト初モアリセヨ 朝直

ヒ夏ノ人情トモキモヤシテキモ我ハヤヒテラシトモ

朝保  
内間

一季トモ候ニシムハシヒテキモアシマスモヤシテル

政輔  
内間

羞瀬の花モトシナシテカムモサクノ人ノヒナ

都時鳥  
内間

タニツキの山モトシナシテカムモサクノ都ニタスルモヤシテル

季連  
内間

月前時鳥 照月ヨリテモウタキヒテカムモサクノ也モシテル

朝直  
内間

遠時鳥

ハシキナリテシテモシテモカレハシキトニ初モテシテル

季連  
内間

時鳥遍

ハシキナリテシテモシテモカレハシキトニ初モテシテル

朝保  
内間

杜時鳥

アカモトモシテモカレハシキトニ初モテシテル

朝宜  
内間

閔時鳥

アカモトモシテモカレハシキトニ初モテシテル

朝宜  
内間

船中時鳥

ハシキナリテシテモシテモカレハシキトニ初モテシテル

季連  
内間

與聞時鳥

ハシキナリテシテモシテモカレハシキトニ初モテシテル

朝保  
内間

馬上時鳥

ハシキナリテシテモシテモカレハシキトニ初モテシテル

朝保  
内間

弱ヒカレハシキトニ初モテシテル

季連  
内間

革枕絆す筆記の如きをうなづけやゆるもん 賢福  
左手がまく夏候とまくびく枕まちくぬやまくす 盛元

賊女との早苗ことかく

あらわめうとうすよゆまくす早苗とぞりゆれのきひそあら 朝昌

まくらとの匂ふまくらにほじらひすとまくねあらうううち 朝常

あつべきむらむらの匂ひをいつまてあらむひすとまく 朝常

ああめもむしれ爰らううら花もらうれのせり柳す 朝保

曉よんやまつともももあ、毛たらももひの匂ひこくら 政輔

春拂みううううゑう桜の花さく夏うみかみううう 朝常

常事におもひぬきうはすうううううううううううう 朝常

桜のむくううう、秋やもむくひとまぬい角すとれ 政輔

五月雨

五月雨久

旅五月雨

五月雨晴

水 鷄

旅宿水鷄

雨後夏月

竹間夏月

わらはら月の三事ひいとあらもももからうまとれお

舟中夏月

タモミヨシヒロトモトキ喜久井月先達再上りおもて朝邦  
すまくらふよとれハ風うる月の秋も涼ううあれ 朝貫  
海邊夏月

月也空もうれかてお波の上に夏とをともに見されり 正全  
旅宿夏草 鶏皮はりやらとみけとがくらうるす年外の日 賢福  
夏 草 カミツカミアサヒアサヒアサヒアサヒアサヒアサヒアサヒ  
セ種と香とほとまうらむとせひをすまうりかへ盛金 盛金  
旅宿夏草 うれ旅の心あくまうまがやくほの夜ふ乃ちれ 唯延  
曉鶴河 うれい身曉やまよとれのうせきにはくわうからたのも朝常  
池 水 新刀をハ鹿ふをひくまうりて湯の河口花をうるうふ 盛元  
水邊棠 とくほくうるうふとすみの源されハ花鹿まうりてゆるん 朝保

螢火透簾 戦すのあすすめの望すとあましとふとてお魚ふ 盛英  
蚊遣火 夏れう月よりせくとすとん坂火のきうと晴れりて 朝保  
隣蚊遣火 吹風のまうれせくとまうへと飛りやあとくうとまう 朝邦  
池 蓮 もうととめうつまうれ、波の鹿ふを露ハヤムテキカ 朝宏  
海邊夕立 やうととだめうつまうれ、波の鹿ふを露ハヤムテキカ 朝宏  
旅タ立 珍吉のねととめうタミのからとあや波の鹿ふ 盛奎  
永 室 あとといとあとじりタミとおれましらり露波が由怒  
まう波ねのまうれをとめうとめあまち郎のまうくまふ 朝保  
まう波ねのまうれをとめうとめあまち郎のまうくまふ 朝保

あきよふよすてのりて、あまひねのりて、すりてたり 朝宏

ちるきのめハ大考ア大序も、うやみもせん 盛奎  
閨中扇 河風とひよとせたもかくねやのうちとすをうや 季連

松下泉 カモのモーくうつ、井のあくは風とうてそり 政隆

我やのねのあく水びなせんれをめぬとまへ盛登  
植うてゆくもむきくらます、れりわのあくみ 盛奎

山松の葉けりれあうれとをくす夏とう一あ小 李連  
松陰の葉の活ああき夏のかをうれなう 小宗經  
波うてすれわハ松風もうだくほくくうり 政規  
立考ハ河風をくうよき、つにえハうれをそえ 朝直

十八

内向

河風よたへねあつめはくをくいのまくすじこうふ  
草むらて原むくくはくう興代ふまく一室居の風 季連  
翠すらたへねあつめりあくせくうてすじれう郎 盛英  
河源のうせすく吹風よれもうとせりのうふ 賀信  
うすすくもよもよめ扇三だまて玉とすれ井のあ 朝明  
城やの板井のあよむとくわくつち、あくまくよる 朝常  
舟中納涼 姉はの秋すがの後つて涼よくをくすじ春よ、季連  
大井河よきくらよめとくまくとがくつて 盛奎  
すくまく成つじ被ハ大井河なうく風の力をうき、朝保  
まくわくもいぐの神よからくみとれをめくのよし風

やうあよあよあれまくまく林のみくのねの風 盛奎  
水風涼

水風如秋

晚涼如秋

竹風夜涼

晚 夏

六月立秋  
六月枝

夕風の涼すすり竹のうす相の一葉をちぢめふ 朝重  
めすすくまくまく 囲生の長井はす 風の様くらうとん 朝保  
我やの形のへじくまへ ちひまくは風のすへき 盛奎  
夏とねと今うやむくの風のへじくまへ 黒のあそきとや 盛登  
ゆきうの秋秋うとあき月は未登のすたにほづとん 唯延  
みきさすかのの風まへ さへ心がふわおうぬうう 朝宏  
みきれて飛ひあつて飛ちの時日はふく清りとん 朝邦

秋

立 秋

玉うすよひのまくら秋のゑれ事またも秋をうすり 盛英  
うらげあるまくらくらぬの變れわくく松のう風 朝盛  
曉立秋 晴のやまとまくらくらぬの變れわくく松のう風 朝盛  
あつまのゑはくらくらくらぬの變れわくく松のう風 朝盛  
並みよう松やあらんあつまの松も應え松被ト 安通  
立秋風 神のゑれまくらくらくらぬの變れわくく松のう風 朝置  
立秋雨 あのゑれまくらくらくらぬの變れわくく松のう風 朝置  
久されまのまのとまくらくらぬの變れわくく松のう風 盛登  
并のゑれまくらくらくらぬの變れわくく松のう風 朝保  
初 秋

是の事の如き二日月の新から秋の初めとし

初秋雨

秋の始まりから雨をもたらす神とめぐつて朝保

初秋月

秋の始まりから月の秋をもたらす月の新とし

新秋天

秋の始まりから月の秋をもたらす月の新とし

立秋虫

秋の始まりから虫が鳴くと秋の月の新とし

早秋虫

秋の始まりから虫が鳴くと秋の月の新とし

風告秋

秋の始まりから風が告ぐと秋の月の新とし

待七夕

秋の始まりから七夕の夜をひどりの妻として今うごんとし

立妹

秋の始まりから妹の誕生日を祝うと秋の月の新とし

萩聲驚夢

萩の葉丸聞えりて萩葉ハ露とせすやむきの初えん朝宏  
故郷萩ば秋の尾夜の神の露のあや吹みそとしん秋の上風 李連  
月前萩露を吹あくあもあくと秋萩の露は月あくあれ免政輔  
水邊萩水のうへさくとほりあゆまくうの妻の名とそれ秋萩のむ季連

すくうすせばのあようづくらじとさううれ萩うちう事 朝置  
めの物よ水のいとあく人をうす萩をむちう壁のふ川 盛奎  
きぬの萩あく葉うつともやうらうひくらん萩花妻 朝常  
萩うあぢうさうかくすけすまうりあくうじにとすれ 朝重  
刀うく今すあきうるの萩うあきうすけすまうりあくうじ 朝宏  
行路薄旅人のりうせきをれすれこれの露をまたとくり 盛英  
ゆくようくれれの露を一むくとくれ神うとく 朝置

閑庭萩

田一

朝置

故郷薄

朝直

草花露

朝直

女郎花

朝直

花をうれりよ人をうれしくいつきをすこらまさん 朝置  
もとを余すうかげくうすゆく神うちうす露をうる  
故郷薄 あくのあく小彦うくうくうらまのあくとまくへす 朝直  
ゆくまのあくすくのあくすれ林風あくうらうへす 朝邦  
女郎花がくわがく林風のうくうく露とあくとせをうくうく盛英  
女郎花あやうくのくよくうく女郎花うくうく露とせはくう憲詮  
人笑の心げくの林風もあくうくうく女郎花うくうく朝邦  
林風うくのうくうくうく露とせをうくうく女郎花 朝明  
人笑と花むく神とまゆせをうくうく女郎花 朝直  
うくうくものうくうくと池の水のうくうくあくれ一树朝宏  
沼水ねあくうくとあくうくてはうくうくうくうくうく朝置

水邊  
女郎花

野々郎花

水邊草花

コモヤの落葉うるまくひよかめ波うちすらむかに盛板  
白鳥とおとづれてゆき一池のやまと秋のうり朝邦  
さくまうへあらうねむとめい、秋神うめうへきと朝盛  
ハシ怪れめりく聲あらうとすまうへあらうかくらむん、盛奎  
写廉うへ秋のほをうとまれいすまえ匂うれすも春盛元  
ヨリヤの落葉うるまくへあらうとすまえ匂うれすも春盛元  
りくおと氣とうとすまえ匂うれすも春盛元  
ゆく水うちうひとすまえ匂うれすも春盛元  
ハム様のものかとすまえ匂うれすも春盛元  
くわくわくとすまえ匂うれすも春盛元  
おちあひとすまえ匂うれすも春盛元  
おちあひとすまえ匂うれすも春盛元

廿二

風前草花

隣朝貞

松風とまゆく尾毛う袖うじはうたうかしをふ  
中垣村にあさひははくうりとすまえ匂のねぬつも朝宏  
中垣村にあさひははくうりとすまえ匂のねぬつも朝宏  
角弓と成かいまゆやひとひとく中垣村内からさあぬぬのも政輔  
松風とまゆくとすまえ匂のねぬつも朝宏  
月前虫

雨中虫

西うへま村をくあらうへくじとむう虫の香うへ朝置

虫聲非一

露とすみひくゆく秋のされ虫の声をかひる。朝宏  
さむくすみとくじりはれのよどりいはまくすと  
聞こゑり。あやめのうえすまきれうすく多く  
ま人のえくいよきのせりのせりもすらまくす  
よりよみのまのせりのまくすくまくすとすて  
そくにゆりのまくすくまくすとすて。朝邦  
めのめいあくすりとくらきがうたすとおひあくそ  
せつまくすくまくすとおれと心くにひくのまくす  
じとまくすくまくすのねれがたれまくすとすと  
一もくはまくすくまくすとし虫もすくまくすとすと  
大あざうづきをまくす。將もくまくじとすとすと  
大あざうづきをまくす。將もくまくじとすとすと

廿三

阿波根  
朝教

きくわかふとあくまくすとすとすとすと  
將もくまくじとすとすとすとすとすとすと  
かくらきとすとすとすとすとすとすとすと  
めぬれりとすとすとすとすとすとすとすと  
まくすくまくすとおれと心くにひくのまくす  
そとまくすくまくすのねれがたれまくすとすと  
うとまくすくまくすとおれと心くにひくのまくす  
なとまくすくまくすとおれと心くにひくのまくす  
遠山霧  
小鷹狩  
里 鶴  
旅宿虫  
稻 稲  
月 月  
内間 朝直

おもむくわからぬと山陽をまよひ月の秋か 賢福

はねはととあとてとくつむうにせすひぬ山陽の月 朝教 阿波根

大津代の月とまやうみうぶすむまじぬ雪の上すて 盛英

まのとまくがまくは新へまゆうく雪とす 知恒

月出山

東山にてう月の月やあさこ葉はくくうきうきうれ 正全  
黒實の山鶴、けつあくくにはよくてんのうううう賀快  
さうの春のうらううそよううり葉の美せ枝えみ月 知克  
山鶴の月をわかうてうそよううりの小圓(まど)をまかて 朝保  
妻てく城月をうてうそよううりのまようあてをむけ 朝張  
りらをあすはまのやあくわくまの友がちあまうつ 良政  
まよすうあくわくつて四すむねじれぬ年の秋うね 盛憲

月吉日

廿四

まわて車の軒と汲うちもくや月のうらなうしん 盛英  
ひくうわとひくわとんえとひくうみうとくう月一れ  
とくうもとくわとまうまくう月三あすとまくわとん 正元  
あすの軒もとくわのえとむきくう月一がむくうとくう 良保  
あくううううの軒とあすの軒は月一がむくうとくう 由恕  
とくうもとくうとくう月一あすのえとむきくうとくう 朝置  
とくうとあすのえとくうとくう月一あくうとくう 正善  
みくわとんあすとくうとくう月一がむくうとくう 朝常  
ゆうとくうとくう月のりうとくう月のえとくうとくう 朝昭

まやてあまくすのとみたぬひ月のみたぬひ朝直  
てまくにあらう月うみあみのえつまくまく盛奎  
むくあられれ林の新月とそぞねはまやあかとん朝要  
まやうほとアキをまくすのあくう新月とそぞなう真裕

## 八月十五夜あう寺まで

ひきと育ゑれあきと憲わくはなみのりかとくや盛舛  
ぬめもれとくはまととてモニ元の浦れ林の新月朝保  
武彦守の月はむくは月あく新のとくとん朝昭  
吉川山に見一が林の新月の匂ひまくらまくらま  
ト此をもゆくまくまくらるる新月とぞの月朝宏  
うのひ書とうよとアキをまくすの月の新月盛英

山月  
里月  
松上月  
松間月  
正全  
朝常  
唯延  
真定  
政弼  
正邦  
朝常  
唯延  
盛元  
朝常

すうだちてあまくすのとみたぬひ月の月  
かれまつともうかくゆく月はまくすの月の月 盛元  
く山ふくすけやがまくすみまくらハ月のうらうとん 朝邦  
難波くあすの林新月の匂ひまくらまくらま  
みよづるのまほれからまくらるる新月の月 正全  
翁相をもくわくやまくらむくらむくらの林の月 朝常  
うひてあまくすとてゆく月はまくら大原の月 朝常  
よすのわすのねりあるすくら月をあくづくられ 唯延  
すめう月のうすくらすのねりあるすくら盛元  
うかしむねのねのねのあらう御月のまくわくう朝常

竹間月  
海上月

都月

力のふともかくもやわのあらうなまう月あれ 盛英  
木の葉れまうまくみる月の新モヤニモヤウセ季連  
さうものゆきけはるまえをうアラモツ秋の葉れ月 朝保  
かうあよ大ゆゑもてはのえのうちうううあらう月 朝宏  
山月

ちんれせやか月のとすうせりうめのさやき 朝昭  
さく月の葉れまうは林の花の郎のゆうやうか 朝常  
あふあまうりけ東のねい月をとくかて 安信  
太夫のあまえのひあきて そやことく月のとむん  
えいのちま人のとめあつづりあら月の新卦 朝直  
更から鄰方ぬのたまくものとまう月 朝置

西友の郎のうす月とあらまくとまう月 朝置

〔甲六〕

秋の秋の月の秋く残るやう月とまう月 良保  
あやか月のやう月とまう月世くはやくとまう月 良保  
こまくまくとまう月とまう月とまう月 賢貞  
小車どうし此あゆとまう月とまう月とまう月 良政  
あゆとまう月とまう月とまう月とまう月 盛英  
和義のみやみとまう月とまう月とまう月 賢貞  
あたとまう月とまう月とまう月とまう月 朝盛  
沼うく姫うくとまう月とまう月とまう月 政房  
うせうく月のあやまう月とまう月とまう月 知克  
天代のとまう月とまう月とまう月とまう月 有良  
和義の大あととまう月とまう月とまう月 全道

かの故の事の事にてまゆりをぬれよ月政輔  
武益村の事もつてゆれどもひに月政輔 李連  
月入簾 さくれかとまゆり重ねあらう月のまゆ  
山家月 さくれかとまゆり重ねあらう月のまゆ  
足利のまゆねのまゆれいあらう月のまゆり 盛英  
樵夫帰月 崑山ねのあらとゆり月もたげてアモリのき金武 朝昌  
田家月 嵐山のまゆのまゆうにゆり月もたげてアモリ朝尊  
惜月 風れづるふのあらとゆり月もたげてアモリ季連  
樵夫帰月 露れづるまゆの月のまゆうにゆり月もたげてアモリ季連  
まゆうにゆり月もたげてアモリ月也安信  
下月のうとおでゆうあん東も東方もゆりやも安信  
宋人のうとおでゆうあんううね月やいつし由恕

思ひてまゆりたまゆりはまゆりてゆう宋人 盛奎  
さくれりまゆり月もたげてまゆり月もたげてゆう宋人 盛振  
宋人の妻もまゆり初紅葉もまゆりうう月の新正全  
ゆう宋人の妻もまゆりもまゆり月はまゆりてゆう宋人 盛憲  
月もまゆりまゆりてゆうまゆり今月とまゆり小野の文 朝珂  
宋人のゆうまゆり妻もまゆりてゆうまゆり月のたまゆり 盛英  
初りまゆり妻もまゆりてゆうまゆり月のたまゆり 盛元  
あらたまゆり妻もまゆり月のまゆりてゆう宋人 朝宜  
宋人のまゆり妻もまゆりてゆうまゆり月のまゆり 盛元  
月もまゆりまゆりてゆう宋人のまゆりてゆう月とまゆり 盛英  
月もまゆりまゆりてゆう宋人のまゆりてゆう月とまゆり 盛元

會友見月

より火の雨とその如きやうことをとすの月なり。され朝保  
大室の月せうすむすりて心とのせくらひを承まうれ朝宜  
九月十夜

用べにみゆ拂きともあやけから御中のすまがまうり。政起  
我すの菊はすなむじ匂ひたうとすと約一月のうち賀快  
あまし言葉の月といふれい似る新うよ長月のを 賢貞

中にはのとすの月を「延年」すまうる 朝教 阿波根

おもて八月の桂と紅葉してうるよまうえうつし 由起  
白菊のむちづく月を「ほの今宵のかと延年」とん 朝珂  
りて初一葉のもとす匂ひのんもと「アラウム月」のを  
長月のとすのはのうかみたわもあまうむくすり良政  
ヨリやくの難の菊も長月のとすの新とうすあらか 盛英

(二十八)

白菊の難よ匂ひ月はアラキ初およまうへあらうね 盛英  
みちづくもみたわも行うるよまはとすとすりうきう 朝直  
あまの月のをとすとすりうきうとすりうとすりうとすりう  
草でそりあらまのまやげましまみことまみれ月のを 朝亮  
本月の今宵の月はまよのすだのむとがりぎりが 朝盛  
めぞう一世も七月の月をまへがれふることむくこれ 朝保  
いはくとまみあらのをあらうまけいわくとめうれ 朝宏  
秋風の吹く日うちまれつ初原もむくまくまく 朝要  
さくけいをも小アモて原も先もたぬめうるまくらん 朝 賢福  
まくまく秋風もむくまくういはくさくらん秋ひくよ 盛英  
むせとこうとすりてまくすもあくすやほのまくらん 盛英

雁 待 雁

誠のうみの夕日の新よさらかひくまきしらとまくに北ノ部 朝置

月のもじ尾上のねむすりけれり初ギテル比モノつ 朝直

いはまてうまをもくて居るの翅よがりこころうるゝ 朝宜

有るの誠のるぬとおづてんねむすりあちくうるんちせり

ふ非のりみの少きあてましらとあくまね夜うらゆ全道

秋風ハシタクノタカウキシテソウラのむとまくに賢貞

内間

賢貞

秋風の身よまじかれてみうらとだらでまくさん夜りしる 朝直

冬方のむかひれ玉手す手とくほけく候うりうり朝置

甲九

はねはづきり人の玉手と二あさやきうる玉はさくす 盛振

初 雁

曉 雁

雲間雁

風前雁

霧中雁

田上雁

ヨリヤのほひはすれりよそもひすててのきよし良郷  
秋風の身よまじかれてみうらとだらでまくさん夜り政起  
あづまのまくられ上すきとせねまのまの初序の身 由恕  
曉の身よまじかれてみうらとだらでまくさん夜り初序の身 朝常  
秋風はよまくらでまくらとだらでまくさん夜り政朝  
我門の船よまくらでまくらとだらでまくさん夜り朝宏  
あせれ山の原れ音の身よまくらでまくらとだら夜り 由恕  
きよきようくうくすりよまくらとだら夜り初序の身 知恒  
おせれたるくくはくくすりよまくらとだら夜り朝邦  
きよきようくうくすりよまくらとだら夜り初序の身 比あらの身 宗経  
小山の船よまくらとだら夜り初序の身 朝珂

あせれふのむすびよきとてとくれ私のはなしの、  
賀快  
深夜雁 めるをの夏政のとをよぢて、秋まかづき初冬のを、  
賢福  
旅宿雁 あたれすもじまほまきこぎ、勝れまつらがのを、季連  
鹿 きぬのをよぢて、すりうつまきとて、朝宜  
山 鹿 我山のあましやまきとて、あましわうすあり、  
朝盛英  
遠 鹿 吹きひよきとて、ハ夷山の原のうくはわくへり、季連  
月前鹿 ひよきとて、あましやまきとて、尾上の月のえまろま、正全  
薄暮鹿 ひよきとて、あましやまきとて、初秋の更けまくいを、朝置  
深夜鹿 えぬの尾上れど、う有ねんはよねうて、あやこさん  
妻よのとくやうすくまきとて、あまろとてあるが、朝常

〔三十一〕

小寫原れつまくすすよ祕書て月とせかしらす板書、政隆  
名所鹿 秋林のをのあくとまくまくとて、東とみ麻の、至盛元  
山家鹿 は林ハあくとまくとて、板書れ也とて、ノル、うのを季連  
山里ハ磨もあくとまくとて、板書のあくとれハあくとれめ、朝明  
小寫原のよだらにあくとまくとて、室と位ハまくめ、板書ひか賀雅  
あくとまくとて、室と位ハまくめ、板書ひか賀雅  
我いよ林のあくとまくとて、室と位ハまくめ、板書ひか賀雅  
の室ハまくとて、室と位ハまくめ、板書ひか賀雅  
峰鹿もあくとまくめ、板書ひか賀雅もあくとまくめ、朝盛  
田家鹿 門ゆりが、うらおどもとて、門と席主とをかざん朝宏

〔三十二〕

持 衣

月前持衣

隣持衣

里持衣

物を祀る所のあくにわきとまとうはひる小夜あらかじ朝尊  
月前持衣  
用もあいをよむときそがり衣津こうつむけりあからうう季連  
隣持衣  
まらかくもきみのふとをさゆりをとくううせん朝保  
里持衣  
衣うやねぬとつりきり幕すむとみぬ秋條乃里朝置  
あいづきのまこと廣衣うやためりのやれと賢福  
志ほのち月にゆきの小板をうかくそ一文神のまと朝明  
ねいそやくひとあじよ沙く黒しきひ被きれ衣うつう盛奎  
形うそのあくあくうに板三うらゆきまくらん朝常  
名ううてせえきよ廣衣うつある一高寺一北と唯延  
被れもとのまことぬとくわざりうつもあす一被をあらん内間  
まのまうおまへ毫て廣衣うてもやさゆきあらん

(四十一)

連夜持衣

海邊持衣

故鄉持衣

山家持衣

風よも秋のよもすすみの里うちやうつあ 盛振  
月まらてうちはしん育こにおくすり極のまと朝宏  
岩のよもせうほじ廣衣うつうくうらうらうらうれ 朝保  
照石と浦風もくわがと波もみうるうそき 朝敕  
唐衣うやくうてねくと唐衣舟も袖ときうらん 朝宏  
名のれがくじりかのよう壁のまく衣うつう 盛舛  
唐衣うつうとせんれいこうとまく山彦のまと 盛英  
タク席のまくとせんれいこうとまく山彦のまと 盛英  
月すかしのまくとせんれいこうとまく山彦のまと 盛英  
妻ふうとせんれいこうとまく山彦のまと 盛英  
すく色のまくとせんれいこうとまく山彦のまと 盛英

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 李連

中とじ菊のそくくまことれひをひくふるゆまゆまゆ 朝教

籬

阿波根

菊 菊花はアリキムルヒマツモソリキ毎のわと刀をも朝保

庭

菊 菊は庭のまうむくまく菊は木代のかうむらうぎり 朝明

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 朝置

菊

菊の花老せぬやうむきり木代のたのやうひ初え 朝常

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 朝邦

菊

木代あくゆだいなまくはくうめのくわく菊のむ 正益

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 朝盛

水邊菊

白菊の花ひまよろとく菊に木代とまゆとくらむ 朝邦

三十二

折菊贈人

山

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 正益

一枝

枝とおもへ袖くへ菊のむ木代のむすと木はううん由怒

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 盛英

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 朝直

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 朝明

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 正全

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 唐れ宗経

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 唐れ宗相

菊

まゆまゆとくらむをひきあてぬひまよろとく菊のむ 今帰仁王子朝敷のゆゑも

三十三

秋聲也あらのよ代よりかひふつとく自かあら菊のむ季連  
西家の花のもちかよまくをとすをの左と右や又るも國山  
沖島北嶽とへまくきはれも君とせよとさくりん盛金  
西嶽のたよをかくはれともせへんとすすくあれ盛舛  
よ世の處よ夜のまえへ咲きのむれをみやぢやうなり朝春  
或人の庭前れ菊城

九月九日

いろくせきのむきはやふよ代のあつまにかうあり朝尊  
仙人のまは菊もくすくに主もとせれをとくにぎる安信  
まといは菊のまづや汲みけり代といをぬ宿かう危朝常  
山家秋 宿ひまくとくとく葉と青れおほのたら風くとん朝保  
世やとととぞれきとよ山被すれひのむきとくとく 憲詮

三十三

萩のまよわく新瑞のむねをまきし松の久喜朝叔  
ゆきく世のりまくまくりてとくとく城へり松のまくひ朝宏  
ゆきの處はまくらまくらまくらまくらまくら朝置  
をまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて政輔  
白雲はねはふと人ともち野ものむちと深井あら山  
色こころは深と方と小倉の農耕すちと深井あら山  
紅葉がまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて  
財氣がまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて  
勝人のやまくとて丘の紅葉がまくとてまくとてまくとて  
まくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて  
まくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて  
まくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとてまくとて  
内間 朝直

ま稚山まきりあま紅葉の初おまうて塗んやす 嗣職

山脈のまよと下塗のりみうまとあよりのともとひくと 李連

山脈のまよと下塗のりみうまとあよりのともとひくと 朝保

松間紅葉 まよと下塗のりみうまとあよりのともとひくと 朝重

うちむすかゆのねはあるすうもく まよと下塗のりみうまと 賢員

岡紅葉 およすす墨を北斬をがさうとて塗つ下る桺紅葉が 李連

水邊葉 不井河底までねやたらめんあれとみ紅葉 まよと 喜重

およすす墨を北斬をがさうとて塗つ下る桺紅葉 まよと 盛登

三田川ちづれりうちれう ひい新村あこづる まよと 朝明

まよと ひのりみられをひあくうのあれ庵を塗まくと 賢福

いうまきひまくみれぬ紅葉のあれ庵をもすりあくと 朝里

まよと ひのりみられをひあくうのあれ庵をもすりあくと 朝里  
人ほそうすすみかのうとまく河を走りうちくと まよと 盛英  
大井河を走りうちくと みづの戸難波せぎのまよのあま朝盛  
大井河を走りうちくと まよのあま朝盛 全道  
まよと ひのりみられをひあくうのあれ庵をもすりあくと 朝常  
車くれねのあらめねのあらめねのあきがまくと まよのあま 盛元  
馬のきれねのあらめねのあきがまくと まよのあま 盛振  
嵩紅葉 我よのねはあるとねと下塗もと下塗もとあよりのあま 盛英  
高等そ 世事れわとたまて唐脚とくとまくの梅乃尾北山 李連  
ねねち 草鞋と拂とりつね笠と下りみうちを身とあり  
若王寺れ紅葉が下りみうちを身とあり

まよひかむる紅葉かは辭より月と雪とにあすハ辭ハナリ  
又孟に紅葉のちうもと

西より一葉比紅葉の持と波多もあらニ郎

人力車より一叶の紅葉が下りて

山館秋雨 淋一さくら山館の夜とこすひきれぬ秋のむら雨 朝保  
暮秋時雨 ひそかに夜の雨すらふく枕もとへせりとさり 安信  
鐘聲送秋 今宵も重り愁よつまて聞れあらまきみのりとん 朝宣  
難波ちねのまわせとせんじゆめとまくさくりあら朝置  
夕暮のかひれをよまとくねばとまくは菊をまくされ 朝邦  
初秋山中もまくねのをハ松のり方と告るうきうきう 朝隆

## 冬

初冬月 紅葉うて衣もうるま二月の新月もてるもとまくり安信  
祚育月財後一日よりまゆるか月の持とあやかくん紀恭  
候めうる菊とちふし匂ふる庭れすの二月の新 唯延  
きう火桶あすうかと志せらまくは新をまく 朝常  
初春よ新とまつて二月の照りしむく照タケル那  
山風も吹きまくらまくらむくあつて二月の新 朝常  
紅葉もまくらまくらのうのうもじあつて二月の新 安通  
をまくらまくらのうのうのうもじあつて二月の新 朝常  
初冬雲 らうれきこなまくら山陽のまくらまくらのうのう 朝宏

初冬嵐

昌黎の木葉せぢう力をあくとさをもすれ 盛舛

初冬時雨

ゆり花より小まの山獨とうらあそよすれに季連  
冬あくねのあくや若つてく財氣よりはるの浮き朝宏  
水をのま羽の山色に枯くあくすをもすれに 売詮

アキレタリハ私まうまゆ尾も神する財氣に 賀快  
祚育レシテシカシクあるやうみのハ君もすけしん朝昆  
多ニアヒテテモレバアリ初財氣トベシ高き事正  
祚母月夜ウチモアリて財氣をせか御元やめが 正全  
や秋ハ山秋アリヒヨシムン財氣くゆるうゆの邊を 正善  
アミトウハ萬のくらうなとく小倉ウチモ財氣を政起  
約戸わあくまひアサハアサハ日暮ウチモ財氣を 賀雅

初冬落葉

初冬落葉 大きな葉もいまとあるの落葉をもすれ本葉ふ 朝宏  
時 雨 祇育母月モアリカシカシクあるをゆる財氣れ 李連  
樹アリヒヨシムン財氣アリヒヨシムン財氣だくつう財氣の前  
多キハ多キハアリカシカシクあるをゆる財氣う耶 盛元  
晴ハヒヨシムン財氣アリカシカシクあるをゆる財氣う耶 知克  
シテシテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ  
曉時雨 晓れ財氣のあくねまよて紅葉アリハアリカシカシク宗經  
老ノ代アリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ  
三月もあくねまよて紅葉アリハアリカシカシク朝常  
老ノ代アリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ  
朝時雨 いはくもてアリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ  
名所時雨 いはくもてアリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ

朝時雨 いはくもてアリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ  
名所時雨 いはくもてアリヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテヒテ

山家時雨

きよみのあくと風と雲と人うきり山れきのと 朝要

関時雨

きはの花やえもととくと誠ひてゆるタあれうね 由 惜

水邊時雨

今ハまく海のそととくと浦つてひして嘗めすとん 朝教

松浦かく波ぬけに是うれり唐去まてもあらうとし 由 恕

山陽のひまねとをほくちと海れすとくはるま 盛英

あらきの波色とくしてはまうすとくわとけはるす 朝置

梢とく岸とあらむしはるのむすもすとくとし 朝邦

海士のすうせ紙とあるのむすもすとくとし 朝邦

小倉山あやねまやせうるん松とほれ峯ひ紅葉 季連

夕落葉 夕あらひまくあらじいがやもとむらまくあらちる本多正

月前落葉 本多うち山れ梢へあまとくと月のむすとむくあら 朝邦

風前落葉

木ねうふうやく木ふが茂とくせく風とやけとれあら 朝保

ふうへ下あらひの森のこくしは木ふのうね孤きくくら 朝宏

足處の山あらへくまとくまくまくまくまくまくまく 朝意

こくしよ山の木まひまくまくまくまくまくまくまくまく 朝邦

ふまくつと木をあひはれいをとまくまくめたけり 季連

あらのやまととれやさとんぬあとすのりまくまくまく 朝延

木井戸難樹のあらやまくまくまくまくまくまくまくまく 朝宜

紅葉ヒミクは木とくとくとくとくとくとくとくとく 朝安信

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

橋落葉

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

山家落葉 落葉隨風

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

木葉もくは木とくとくとくとくとくとくとくとくとく 朝政吏

是實の我ら河の柳本ぞ一ちうあまむてうけうきうり宗相

あうづり橋の紅葉とすまゆめりあの人いまとひづく 朝置

あやうとくや本多むとしんねがたう翁の枝う 唯延

ゆうな草の草う あくねが本多のようち本多うみ 盛英

まくは翁の枝柳柳本ぞ 本多めきとひづく 朝邦

廣まゝや木人柳もかわうすて度みうちりみらう郎 朝重

まよすへ木多ふくよそてゆくうちあくべトの山井のひ 李連

ちうるの南れ山アカルヤウモテキタの翁ハ翁ハきつる 朝宏

城やの庵やせまくを菊ひ事と毛うて翁ひ多々 盛元

仙人の望うゆめかきのを書ひまうむほせたる免 安信

(三十八)

さううのううと見せせまうう池のつものとくすのも季連  
池上残菊

木 枯

むうすうもまよとひのまよとあきはせまうう風乃風 朝邦

まきそれんやくひやくまわのとまみそくとくとく 岸 盛英

ヨリの庵れ庵ふと咲うすはまうたじかひひちや 朝常

木枯のねゆひやくと咲すのはまうたじかひひちや 朝常

木のまともひひづうてまほく月はむとこうとー七翁 紀恭

木もみみまきひづうと風のうせのやうとくくさう 安信

うれうてかかげうまきの森よまくほこうしの風 唯延

まやのれのねれおまれ枯葉吹く庵れうじの風 朝直

内向 阿波根 朝教

まみまよとづくまうりをまと枯葉うと風の風 李連

寒

草

寒

松

水始結  
井 水

紅葉ハまもひづくて毛はう枯らすとくうのを 朝保  
小雪廉の毛もさとふとくう壁のまわるあがむを 盛英  
毛とくのあとやもしもくさくわいもねのねりあくべあり 朝保  
まふみまもひづくて毛あくねの物とゆあくべれ 朝置  
毛のこゑときとさゆうまのすアスカミキモのねり 守敷  
あかとむくあくまくまつたまみはくとくう 朝宜  
毛のうらまくまくまう唐津のねり桔とはあくべれ 盛產  
一筋のひき極の水を絶ふきうれまゆうぬねがうれ 朝明  
我すめ垣ひきくわとりひのじくぬもみろ傳ひあくべれ 朝宏  
冬月と冬月とちよくうそもあくまくまう車井みま 朝置  
うみかまうと冬月と冬月とすまきまくぬやうの荷ひくま 盛英

(三十九)

かくあささくまく山の井をあさうねあみのひづくても 全道  
池 氷 ま月の新ひづくすまくまくらあくまくー夜のゆえ 唯延  
す月の新ひづくすまくまくらの夜のゆえうから初き 朝意  
霜 初 霜 し雪は垣のせきの小雪廉のりかとくすと冬のゆえ 季連  
月 霜 あくまく川をほどのまとてあきと初めのみとあくま  
らねのゆくのとね身新の事よりもく又あくまうき 昌詮  
寒夜月 らくまく川をほどのまとて月夜のまのとまもあくまうき 朝宏  
裏紙ははくとあくまくめんえんまくすかくまく 朝置  
綱 代 まくわく綱代のうてあくまくめんえんまくすかくまく 朝宜  
りうたのれとみるく夜よせゆ上あくまくたそまく 盛英

水鳥

アラシキと洞代コノモトマサヘイリハナヒツシヨンモタニシミツシル朝置  
ミカシルモトウリオトナリヨシヨリルアリ。ハキヒタリモアヒトモコ朝保  
アシカクモアヒリ本コセキスルトムトドカセテムシロ朝常  
声の多アカヒナヒタシスルシテヒムケアヒタシスル羽喜行ヒガタヒタシスル朝明  
池水鳥

ヨリヤマニ流スアツカムアシテミムスアシテヨリタマヒタキスル唯延  
波ウニタマヒタスルトモアシテヒムケアヒタシスル波ウニタマヒタキスル唯延  
浮葉ハ重テはしもミチスルタラアヘマシテモシテアヒタキスル盛塗  
アヤシム様のともやのタマタシタマフアセテモシテアヒタキスル盛綱  
任事の拂未メ候のタマタシタマフアセテモシテアヒタキスル朝敕  
波風のキスカタマハタシタマフアセテモシテアヒタキスル朝宏  
波風のキスカタマハタシタマフアセテモシテアヒタキスル得禮

四十

河千鳥  
名所千鳥  
行路霰  
待雪

タマハタシテシシテモヤミチャカシシル波音ハタカムモシキシ  
河千鳥  
名所千鳥  
行路霰  
待雪

初雪

山 雪

宜野湾  
阿波根

雪あめうまきる者と照月のてうに雪とありひありうね  
高さきひみぬうぢやみゆふもよとろハ白山すく  
成りうきうだとまみまちいとてぬるうそくとえ  
名所雪 まきうみひまう里あへぬうぢやてあらのうらまそくとくと  
里 雪 まきうみひまう里あへぬうぢやてあらのうらまそくとくと  
行路雪 なほうとうみたうてばれあまきねうまきうすくもうね  
連日雪 朝保  
遠山雪 りまてうかさのひあまのうまくのうりうめくのうりうめく  
水邊雪 朝登  
大井げももあく一うちをはまこもくをまく  
大井げももあく一うちをはまこもくをまく 朝明

雪あめうまきる者と照月のてうに雪とありひありうね  
高さきひみぬうぢやみゆふもよとろハ白山すく  
成りうきうだとまみまちいとてぬるうそくとえ  
名所雪 まきうみひまう里あへぬうぢやてあらのうらまそくとくと  
里 雪 まきうみひまう里あへぬうぢやてあらのうらまそくとくと  
行路雪 なほうとうみたうてばれあまきねうまきうすくもうね  
連日雪 朝保  
遠山雪 りまてうかさのひあまのうまくのうりうめくのうりうめく  
水邊雪 朝登  
大井げももあく一うちをはまこもくをまく  
大井げももあく一うちをはまこもくをまく 朝明

海邊雪

雪けりかあはまか雪河のゆゑとこあらみたる派  
大井町のとすちもほぬれあちうる事のもとからか 宗経  
まつものにそのまじめゆう事はせうらのをうらぬ盛奎  
そとのみつむと見てねゆくことありてゆく事が  
任娘のらまのあくまのうすをよと致す事にうれい危朝重  
任若比しれんきくようじやくもとあまの書もひらめく

うらうすの事のまのねうちもと残してけり君う耶

内閣

朝直  
高きのとつとくらんらまか事はくもとあまの書も  
もうとれ大ゆゑよすものまくめとろやゆはゆの盛英  
橋立のねのまくらくおうてゆくもとあまの書も朝常  
浦風の吹上れ候のままでうけりとあくらのゆを朝置

四十二

閑居雪

雪中會友

埋 火

あひますらまの手までうつて一書をけりとおばあゆ由恕  
住吉の傍れ高柳のうつれ事のまくあくまくうり 賢福  
ゆきまかく引きあくまくうりうり流すまく事のまくが 盛登  
んかくんとくあくまくうりうりうりうりうりうり 盛元  
かくまくうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 朝常  
あくまくうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 由恕  
北きもまくうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 盛綱  
埋火とえむとえむとえむとえむとえむとえむとえむとえむ 朝恒  
埋火とえむとえむとえむとえむとえむとえむとえむとえむ 朝直  
かくまくうりうりうりうりうりうりうりうりうりうり 朝邦

内閣

四十二

あまく少少火桶のやれ生家をきまつもあたひ無くうわ盛奎  
たわみうのほてほ火のよつとよくがまめこよあり 朝昇  
爐邊開談

せ火のよつちうよかうれいうつものよこさうりぎり 朝常  
炭 窓 暖 ゆうすぬよたすのやくもとがまのきづくり盛元

神 樂 とりくよあきるよの神一席のとあみ神やうしん 盛奎  
さくまのよやくあ神よすゆくたううへをまほく 朝常  
笛升のちよくようようもとそくと神や乃くとん 安信  
笛升のちよくようようもとそくと神世やそく神あそひ 盛英  
すすくようようあきるねくのちよ神世のちりやうか 朝宜  
ゆうよく指のひやたぬくとまくらへう黒よくあり 季連  
多ひきの本ねよたくとよがくとまくらへう 盛登

冬 獣

早 梅

てまことにまういのおれ夷をとまらへ初名今うゆくとん 唯延  
太古にまうよかうと麿也もまうゆとこうよたうをとふ朝常  
ヨリくよかく山里れをとまうやまくまくとまうのちはうりて 盛奎  
をこれて、よまくよよけじとあまもまうのちけりて 朝置  
山里のまうよまうけのむらもまうとま漏うううの初を季連  
白ものうもまうにまうきうまうとま漏うううの初を季連  
ゆうけりよまうけのむらもまうとま漏うううの初を季連  
山里のまうよまうけのむらもまうとま漏うううの初を季連  
うもひまのよ一とまうきうまうとま漏うううの初を季連  
きのまうよまうとま漏うううの初を季連 朝明  
うもひまのよまうとま漏うううの初を季連 朝明

匂ひまことなきうちさく 我門の君のまことのうゑの初も 唯延  
吾のうらははることしわへきのあんけつろうめのとも 賀快  
トトあらわさうみみをほむはうはうめまめのうめの初も 朝常  
モ拂ひうめのめいははううめかくあくにまやまくは  
キのひかくともつまみとくねうらうよくもゆく夜のめいは 安信  
おれうらうまもくはくはく候めいとまみかともまのきちが季連  
山陽よほりまるとともとくわくちあもまやまくは 朝邦  
新ふせうの事とそんせのじくはくま風を燐く朝置  
トタはのあれねくらめくたうううまくあへる 騰盛奎  
まそそがくわねくらめくとくまあたまくわくらしおす朝宜

雪中早梅

年内立春

いほのまくくわくとくねす際門あく底どくまくまくよくん 正全  
待 春  
梅うきまくまのまくとくひくまくつねくとくひあくられ 盛元  
老後待春  
老く身も小ねもんじくかくとくまくとくまくとくらぬ 朝置  
歳 暮  
苦そりとくらめくとくせせへのとくとくいきくわくううの 朝明  
まのまくくわくとくまく業もくまくらくとく幸れくわくう  
果のとくとくあくられとくれめいとくせくとくせく 朝宏  
梅柳をとくすのとくううのとくの初もくらめくめいとくめい 朝連  
市歳暮  
市歳暮  
あくまくばくらぬ門とくまくとくあくまくのとく 朝明  
歳暮松  
歳暮松  
年齢のうれくとくまくとく門とくとくまくとく 朝連  
年齢のうれくとくまくとく門とくとくまくとく 朝明  
まくまくとくねううとくまくとくとくまくとく 朝明

閑居歳暮  
待 春  
梅うきまくまのまくとくひくまくつねくとくひあくられ 盛元  
老後待春  
老く身も小ねもんじくかくとくまくとくまくとくらぬ 朝置  
歳 暮  
苦そりとくらめくとくせせへのとくとくいきくわくううの 朝明  
まのまくくわくとくまく業もくまくらくとく幸れくわくう  
果のとくとくあくられとくれめいとくせくとくせく 朝宏  
梅柳をとくすのとくううのとくの初もくらめくめいとくめい 朝連  
市歳暮  
市歳暮  
あくまくばくらぬ門とくまくとくあくまくのとく 朝明  
歳暮松  
歳暮松  
年齢のうれくとくまくとく門とくとくまくとく 朝連  
年齢のうれくとくまくとく門とくとくまくとく 朝明  
まくまくとくねううとくまくとくとくまくとく 朝明

間だんまゝあそんと我やのねをうかきをりてあら朝常  
門妻と那よもよ山城うぢあみのそくとれれ翁盛英  
せせれてとまともあはうじ此事とあひうすい引のねを朝重  
ねうううまともうん門妻孤たましよきうれまば朝宜  
あうづうかりの高とすとつねとまうもまとむうん朝邦  
ねううまともうんとあみとあみとあやうもわうる朝直  
ゆう君がうくねううまのわうすと沙うみまん  
年派のたまうまむあくまうんねううまわうま盛奎  
おもれうりく一山まつれむせむうづくらうとくま朝盛  
新まとれ朱雀とまうあーかゆううまとまうふ朝重

除

夜

